

モモの栽培・防除暦（平成30年版）

生産履歴の記帳を怠らぬように

農薬散布時は飛散防止に努めましょう

月	旬	生育相	重点作業	対象病害虫	基幹防除	100% 当り 薬量	補完防除及び注意事項	散布量 散布日 記入欄
1			整枝・せん定	◎切り口及び傷口 のゆ合促進	トップジンMペースト 原液塗布 (せん定整枝時及び病患部の削り 取り直後)		※ 特に1cm以上の切り口には必ず塗布 する	月 日
2			誘引	◎縮葉病, 胴枯病 黒星病	石灰硫黄合剤 20倍	5%	※ 石灰硫黄合剤は, ・目の保護(ゴーグル)をする ・晴天無風日を選び, 飛散に注意する	月 日 リットル
3	中 下	出蕾期 開花期	摘蕾, 摘花 晩霜対策	◎せん孔細菌病	ムッシュホルト®-DF (開花前まで)	200g	※ 散布は発芽前に行う	月 日 リットル
4	上 中 下	落花期 展葉期 生理落果期 新梢伸長期 一次摘果 ねん枝	人工受粉 芽かき 予備摘果 ねん枝	◎灰星病(花腐症状) ◎アブラムシ類, モモハモグリガ ◎黒星病, せん孔細菌病 ◎アブラムシ類, モモハモグリガ ◎灰星病, 黒星病 ◎せん孔細菌病	ロフラル水和剤 1,000倍 ダントツ水溶剤 4,000倍 テランフロアブル 600倍 スミチオン乳剤 1,000倍 アンピルフロアブル(SBI) 1,000倍 パリダシン液剤5 500倍	100g 25g 166cc 100cc 100cc 200cc	※ 殺虫剤による防除は開花が終了して から実施する ※ 炭そ病・灰星病の被害果は焼却処分 する ※ 花がら落としを徹底する	月 日 リットル 月 日 リットル 月 日 リットル
5		果実肥大期 新梢停止期 (硬核期)	仕上げ摘果 ねん枝 袋掛け	◎灰星病, 黒星病 せん孔細菌病 ◎モモハモグリガ (アブラムシ類) ◎灰星病, 黒星病 ◎モモハモグリガ, アブラムシ類	テランフロアブル 600倍 アクタラ顆粒水溶剤 2,000倍 オンリーワンフロアブル(SBI) 2,000倍 オリオン水和剤40 1,000倍	166cc 50g 50cc 100g	※ 灰星病は収穫20日前頃から果実への 感染が多くなるため, 品種に応じて防除 ※(アクタラ顆粒水溶剤)アブラムシ類に対する 希釈倍数は3,000倍 ※SBI剤は連用すると耐性菌発生の恐れが あるので連用しない ○コスカシバ®, シンクイムシ類 フェニックスフロアブル 4,000倍(収穫前日まで)	月 日 リットル 月 日 リットル
6	上 中	成熟期・収穫 ・はなよめ・さおとめ ・ちよひめ・山富士白鳳		◎灰星病, 黒星病	アミスター10フロアブル (収穫前日まで)	100cc	○黒星病, 灰星病 ○モモハモグリガ®, アブラムシ類 フルーツセイバー 1,500倍(前日まで) スタークル顆粒水溶剤 2,000倍(前日まで) ※雨天時の収穫は控える ※適期収穫に努める	月 日 リットル
7		花芽分化期 (7~8月)		◎せん孔細菌病	ICホルト®-412 30倍	3.3kg	○モモハモグリガ® ダントツ水溶剤 4,000倍	月 日 リットル
8 9		夏季せん定 台風対策					○せん孔細菌病 <台風通過前> ICホルト®-412 30倍 <台風通過後> スターナ水和剤 1,000倍	
10 11		落葉期	土壌改良資材施用 基肥施用					
12		休眠期	土づくり(堆肥施用)	◎カイガラムシ類	スプレーオイル 30倍	3.3%	○コスカシバ® ラビキラー乳剤 200倍 (落葉後~発芽前《休眠期》) ・落ち葉は, 園外に持ち出す	月 日 リットル

注1)平成30年1月5日現在の登録内容に基づき記載
注2)農薬使用時期・使用回数等については別紙参照

施肥基準例 みかん秋6号(10-7-6)使用の場合(10aあたり)

	生産量 1.0t	生産量 1.5t	生産量 2.0t
基肥(11月中旬)	3 袋	4 袋	6 袋
堆肥(落葉後)	完熟牛ふん堆肥 500kg	完熟牛ふん堆肥 500kg	完熟牛ふん堆肥 500kg

農薬登録内容が変更されている場合があるので、
農薬使用の前には表示ラベルをしっかりと確認しま
しょう！

鹿児島県園芸振興協議会始良支部